

令和4年度
自己点検・自己評価 報告書

学校法人阪和学園
錦秀会看護専門学校

1. 教育理念・目的・目標

1) 学校の教育理念・目的・目標の設定

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)教育理念は明文化している。	○		
(2)学校独自の教育理念を持っている。	○		
(3)教育理念・目的・目標は人材育成の内容と一致している。	○		

2) 教育理念・目的・目標の達成

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)教職員は教育理念・目的・目標を認識し、共有している。	○		
(5)教職員は教育理念・目的・目標に向けて努力している。	○		
(6)教育理念・目的・目標は学生に浸透している。		○	

3) 教育理念・目的・目標の点検、見直し

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(7)教育理念・目的・目標と教育課程の考え方が一貫している。	○		
(8)社会変化、ニーズに対応して見直している。		○	
(9)教育理念・目的・目標は年一回見直している。	○		

4) 学校の将来構想の明確化

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(10)学校の将来構想は示されている。		○	
(11)学校の将来構想について組織的に取り組む体制が整えられている。		○	

「1. 教育理念・目的・目標」に対する概要と今後の課題

教育理念は明文化し、学生便覧や学校案内、HPに明記されている。令和4年度より新カリキュラムがスタートしたが、実施状況についての共有に課題が残る。カリキュラム改正では、地域連携活動やヒューマンケア能力、根拠に基づいた看護実践能力に焦点があてられたが、看護第1学科においては、基礎看護学・在宅看護学にて地域の方に参加して頂く授業を今後も継続していく。地域のニーズに沿った対応を行うために、地域との密なる情報交換が必要。

2. 学生の受入れ

1) 学生募集の方法

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)学校の教育理念・目的・目標を反映した学生募集方針を定めている。	○		
(2)入学定員を明示している。	○		
(3)総合型選抜・学校推薦型選抜・社会人選抜・一般選抜入試制度の有無は明記している。	○		
(4)社会人選抜入学制度を取り入れている。	○		

2) 入学者選抜方法

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(5) 入学者選抜の方法は明示している。	○		
(6) 合格基準は明確にしている。	○		
(7) 転入学の方法・基準を明文化している。	○		

3) 学生募集の広報

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8) 学生募集要項を作成し、看護の情報を提供している。	○		
(9) 志願者が関心を持つように工夫されている。	○		

4) 学生定員の質・量的充実状況

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(10) 在學生は定員の95%以上を満たしている。		○	
(11) 入学試験の応募状況は定員の1.5倍以上である。		○	
(12) 合格者からの入学率は90%以上である。	○		
(13) 学校推薦型選抜入試の入學生は定員の60%以内である。	○		

5) 学生募集に関する分析・評価体制

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(14) 広報委員会が定期的開催されている。		○	
(15) 志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされている。	○		
(16) 多様な選抜方法と学生の状況について検討している。	○		

「2. 学生の受入れ」に対する概要と今後の課題

入試内容については、市場の変化とともに変更の必要について検討を図っているが、学校推薦・公募推薦に影響が出ないよう配慮している。志願者が早い段階に関心を持てるよう、春季にプチオープンキャンパスを開催し、近隣の看護学校とともに合同ガイダンスを実施したが、18歳人口の減少に伴い更なる工夫が課題となる。

3. 学生生活への支援

1) 健康管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 定期的に健康診断を実施している。	○		
(2) 学生が日常生活の健康管理ができるよう指導している。	○		
(3) 臨地実習での感染防止の対策をとっている。	○		
(4) 健康記録は的確に記載し、活用している。	○		

2) 学生相談室、進路相談室の設置と対応

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(5) 学生相談の窓口を設けていることを学生に周知している。	○		
(6) 学生相談の内容によって担当を決めている。	○		
(7) プライバシーが保持されるシステムができている。	○		
(8) 学生相談の専任のカウンセラーを置いている。	○		

3) ボランティアの支援体制

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(9) ボランティア活動の支援体制ができている。		○	

4) 学生委員会活動への支援

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(10) 学生委員会活動で使用できる部屋がある。		○	
(11) 学生委員会活動が円滑にいくために助言・指導している。		○	
(12) 他学年と交流の機会をもっている。		○	

5) 福利厚生

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(13) 奨学金制度について学生に周知している。	○		
(14) 学生寄宿舎を有し、管理責任者を置いている。	○		
(15) 学生は傷害保険に加入している。	○		

「3. 学生生活への支援」に対する概要と今後の課題

健康管理については、健康管理規定に基づき保健委員長が中心となって指導している。臨地実習の施設とは積極的に連携を図り、感染者発生時においても速やかに対応することが出来た。新型コロナウイルス感染症が5類となった後も、医療従事者として感染に対する知識を深め、予防を促していく必要がある。教員による相談体制はもちろんのこと、カウンセラーによる相談体制を維持しているが、相談件数は少ない現状である。対人相談が苦手な場合も想定し、若年者層向け SNS 相談「大阪府こころのほっとライン」のカードを一斉配布している。

コロナ禍で活動に制限がある中、感染対策を行いつつ一部の学科にて交流会を実施したが、企画委員の学生が役割を遂行することが出来て良かった。

4. 教育課程

1) カリキュラムの立案

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 教育理念・目標にあった科目設定をしている。	○		
(2) 教育科目設定には学校の特色を盛り込んでいる。	○		
(3) 科目設定には学習者・社会のニーズを考慮している。	○		
(4) 指定規則に合致した科目・単位を設定している。	○		

2) カリキュラムの効果的編成

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(5)教育理念・目標にあった順序性で配列している。	○		
(6)科目の位置づけと科目間の関連性を明示している。		○	
(7)臨地実習目標は明確で、効果的に計画されている。		○	

3) カリキュラムの点検・見直し

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8)カリキュラムの見直しは、定期的（年1回）に行っている。	○		
(9)臨地実習の計画・指導は効果的であることを定期的に見直している。	○		
(10)カリキュラムの見直しは学生・講師の意見を定期的に反映している。		○	

「4. 教育課程」に対する概要と今後の課題

新カリキュラムについては教育理念・目標に合った科目設定をしており、「地域連携」という本校の特色・社会のニーズが盛り込まれた内容で、現代の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力の育成カリキュラムで立案されている。これらはすべて保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づいている。より効果的な編成を行うために、カリキュラムマップの形で明示が望まれる。

単位未修得の学生も演習に取り組めるよう、科目等に配慮し時間割を組み立てているが、終講試験学習に集中して取り組める様、自己研修時間の有効活用が課題となる。カリキュラムの見直しについては、概ね外部講師の希望に沿うよう都度調整しているが、さらにつながりのある知識となるよう工夫が必要。

5. 教育活動・教育指導のあり方

1) 学習支援（ガイダンス）

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)年度初めにカリキュラムガイダンスを行っている。	○		
(2)学生便覧は内容・構成が工夫して作成され、学生が活用している。		○	
(3)シラバスが作成され活用について学生に説明している。	○		

2) 授業の計画的遂行・調整

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)授業計画に基づいて授業は実施している。		○	
(5)時間割の進度は、授業計画通りに行われている。		○	
(6)科目毎の授業内容を整理し、担当者へ周知している。	○		
(7)必要に応じてオンラインでの授業が行われている。	○		

3) 授業科目の担当および時間

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8)科目を担当する教員（専任・非常勤）は専門分野についての専門家が担当している。	○		

(9)教員一人当たりの週授業時間数は15時間以内である。	○		
(10)教員の実習担当時間数は3時間ごとに1時間程度の準備時間が見込まれている。		○	
(11)教員間の講義・実習担当時間の配分はほぼ均等である。			○

(自己評価内容)

(11) 授業時間に差が生じているのは学科ごとにカリキュラムが異なること、新型コロナウイルス感染者の発生によって、予定されていた臨地実習スケジュールが変更となり、学内実習が増加し調整が複雑化したことが要因である。

4) 教育の工夫・研究

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(12)授業内容は精選され、学生のレディネスに沿って構成されている。		○	
(13)学生が自主的に考え、学習することが可能な授業形態が導入されている。	○		
(14)視聴覚教育機器・教材の質と量は十分で、効果的に活用されている。	○		
(15)効果的な教育方法について、検討の場を持っている。	○		
(16)教育において日常的に教材研究を行っている。	○		

5) 授業評価

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(17)教員は授業終了時に、学生による評価を実施している。	○		
(18)学生による評価は評価表を作成し行っている。	○		
(19)教員自身による自己評価を実施している。		○	

6) 単位互換

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(20)大学・短大・専修学校への単位互換が可能な科目設定・時間設定である。	○		
(21)大学(短大)卒の入学生に単位の認定制をとっている。	○		

7) 成績評価・単位認定

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(22)評価の方法は試験・出席・学習状況・レポートにより行われている。	○		
(23)授業科目毎に評価者と単位認定を明示している。	○		
(24)追試験・再試験・単位未修得者の評価基準を明確にしている。	○		
(25)進級・進度の基準を明示している。	○		
(26)履修認定会議・卒業判定会議は定期的開催している。	○		

「5. 教育活動・教育指導のあり方」に対する概要と今後の課題

年度初めにカリキュラムガイダンスを実施している。

学生便覧については社会情勢に合わせ改定されており、学生が主体的に便覧を活用に運用でき

るよう指導を行っているが、再考が必要である。コロナ禍の中、状況に応じてオンライン授業を取り入れ講義や実習を進めることが出来た。単位習得に関しては大きな問題はない。視聴覚教材・PC・周辺機器の不具合発生時において、瞬時に対応出来るよう改善が必要。

6. 実習指導体制

1) 実習施設の要件

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)実習施設は実習場としての施設設備が整っている(カンファレンス、更衣室等)。	○		
(2)実習施設は実習に必要な図書が整備されている。	○		
(3)実習施設は基本的看護に必要な看護用具が整備されている。	○		
(4)実習施設は看護基準、看護手順を作成している。	○		
(5)1看護単位の実習生受入れは10名以内である。	○		

2) 実習場の開発

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(6)実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している。	○		
(7)実習施設は実習目的を果たすため適切・妥当であるか定期的に見直している。	○		

3) 実習指導者の能力開発

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8)実習指導者に対して現任教育を計画的に実施している。		○	
(9)実習指導者は自主的に研究会を実施している。	○		
(10)実習指導者は学生の看護ケアに適切にアドバイスできている。	○		
(11)実習指導者は看護実践の創意工夫に努める姿勢がある。	○		

4) 実習指導体制

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(12)実習要綱は各看護学毎に作成している。	○		
(13)実習指導者会議は定期的で開催している。	○		
(14)実習指導体制が明確にされ、指導者は1看護単位に2名以上配置されている。	○		
(15)実習指導者は実習要綱を元に指導計画を立案・実施・評価している。	○		
(16)実習指導員と教員は、役割分担を明確にして指導している。	○		
(17)実習評価は実習指導責任者が作成している。	○		

「6. 実習指導体制」に対する概要と今後の課題

実習施設に関しては、施設ごとにカンファレンス室・更衣室・図書・看護用具など整備されており、実習の目的・内容にあった実習施設の確保ができている。また、実習指導者からは、実践や指導やカンファレンスを通して適切にアドバイスを受けている。

指導者会では実習前の要綱の説明や実習後の振り返りを行うとともに、看護研究発表会への参

加依頼、実習連絡会議への参加など行い意見交換や交流を図っている。今後も実習施設との連携を強化していく。

7. 研究・研修活動

1) 教員の研究活動

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)教員は専門領域の研究活動に取り組んでいる。		○	
(2)教員は研究活動の校外研修日を月1日以上、確保している。	○		
(3)教員は臨床ナースと連携や交流を図り臨床看護研究に取り組んでいる。		○	

2) 研究成果の発表

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)教員は研究成果を過去2年以内に公表している。			○

(自己評価内容)

(4) 研修の都度レポートを提出しているが、昨年が続いて発表には至っていない。

3) 研修活動への積極的参加と教員の活動

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(5)教員は年1回以上、自主的に研修に参加している。	○		
(6)教員は、専門領域の臨地実習、研修を担当している。	○		
(7)教員が研修に参加できるようにシステム作りをしている。	○		
(8)教員は対外的に講師としての役割を果たし、活動している。		○	

「7. 研究・研修活動」に対する概要と今後の課題

担当教科の教育内容充実を図るため、教員全員の研修受講が年度内に終了している。それぞれが専門分野に特化した最新情報や研究開発学問に着目した有意義な研修を選別していた。コロナ渦が続く授業変更が相次いだこともあり、過去2年以内に公表することは出来ていない。第5類となった後は、外部講義を含め積極的に対外的な活動を行う必要がある。

8. 組織管理・運営

1) 学校の組織と関連組織の整備

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)教員組織、事務組織は専任者が配置され、運営しやすい組織図ができています。	○		
(2)教員組織と事務組織は適正に連携している。	○		
(3)教員組織は運営に必要な人数と職種が配置されている。		○	
(4)事務組織は運営に必要な人数が配置されている。		○	
(5)各職員が命令系統に沿ってその役割を果たしている。		○	
(6)教員の人事について副学校長・学科長は意見を具申している。	○		
(7)教員の将来方針を把握し、助言している。	○		

2) 教師・実習者の要件

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(8) 講師の資格要件を取得できるようにしている。	○		
(9) 非常勤講師は資格要件をもとに選考している。	○		
(10) 実習指導者の資格要件を取得している。	○		

3) 教員人事の適正配置

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(11) 教員は看護学の専門領域毎に配置されている。	○		
(12) 副学校長は専任で配置されている。	○		
(13) 教務主任は専任で配置されている。	○		
(14) 実習調整者は専任で配置されている。	○		

4) 職員の職務分掌

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(15) 職務分掌は作成している。	○		
(16) 学校長は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。	○		
(17) 副学校長は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。	○		
(18) 事務長・事務長補佐は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。	○		
(19) 教務主任・実習調整者は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。	○		
(20) 教員は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。	○		
(21) 事務員は職務分掌に沿ってその役割を果たしている。	○		

5) 会議への参加運営

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(22) 副学校長は運営委員会に出席し、必要時意見を述べている。	○		
(23) 副学校長は学校運営会議に出席し、必要時意見を述べている。	○		
(24) 学校運営会議は定期的開催している。	○		
(25) 教員・カリキュラム会議は定期的開催している。	○		
(26) 講師会議は定期的開催している。		○	

6) 学籍の管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(27) 学籍簿は学籍の記録、履修状況が正確に記載され、証明機能を備えている。	○		
(28) 学籍簿は保管が適切になされ、秘密が守られている。	○		

「8. 組織管理・運営」に対する概要と今後の課題

学校の組織、関連組織は正しく整備されている。第1学科は1年生、2年生が80名の2クラス運営となった。

学生のレディネスに差があり臨地実習の指導の際、各グループに教員が必要となるため、実習施設と学校の往来で教員の負担が増えている。職員の職務分掌は明確に業務内容が明示されているため、偏りが出ることの無いよう実業務との突合を行い課題抽出することで改善が見込める。

9. 施設設備

1) 校舎の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) クラス数に見合った普通教室を持っている。	○		
(2) 看護学別に演習できるような実習室の配置(物品等)がされている。	○		
(3) グループ討議等ができるゼミ室を有している。	○		
(4) WiFi 環境は整っている。	○		
(5) コンピュータ室を有している。	○		
(6) 専用の図書室を有している。	○		
(7) 体育館または講堂を有している。	○		
(8) 校内施設利用規程は作成している。	○		
(9) 施設利用規程には学生の自己学習に使用できるよう配置している。	○		

2) 学生支援施設の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(10) 専用の保健室がある。	○		
(11) 学生相談室が設置されている。		○	
(12) 自習室の整備ができている。	○		
(13) 学生用トイレ、更衣室がある。	○		
(14) 学生ホールは交流の場として活用している。		○	
(15) 学生ホールは整備され、憩いの場作りができている。	○		

3) 図書室の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(16) 図書室および資料は分野ごと、領域毎に分類され整理されている。	○		
(17) 蔵書数は学生数に見合った十分な冊数である。	○		
(18) 専門分野は専門領域毎に計画的に増補している。	○		
(19) 学術雑誌は指定基準以上の種類を有している。	○		
(20) 視聴覚機器が整備されている。	○		
(21) 図書と学術雑誌およびビデオ・DVD等の整備点検はできている。	○		
(22) 司書を配置している。		○	
(23) 学生が利用しやすい時間帯に開室している。	○		
(24) 新刊図書の紹介をしている。	○		
(25) 必要な図書整備の予算計画ができている。	○		
(26) 文献検索のためのインターネットの設備がある。	○		

(自己評価内容)

(22) 図書室専従の職員が在籍し、通信教育にて司書の資格取得を予定している。

4) 教材の整備と管理

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(27)教材教具は定期的に点検を行っている。	○		
(28)専門領域毎に教育内容に合った教材を増備している。	○		
(29)機械・器具、標本、模型は学生数に見合って十分な数を整備している。	○		
(30)ビデオ・DVD等、視聴覚教材は自己学習に使用できる。	○		
(31)教材購入の経費は年次毎に計画し増備している。	○		

「9. 施設設備」に対する概要と今後の課題

各種教室、学習支援施設、図書室等整備し維持されていると判断している。施設の整備については開校時に概ね整っていたが、令和5年度には全学生において電子テキスト導入が完了するが、校内全域に整備されているWiFi網を活用し、更なる授業の充実化を図りたい。

図書室の司書については担当事務員を配置し、図書委員とともに整備・管理を継続している。

10. 社会への貢献

1) 地域社会との連携と社会への啓蒙

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1)看護教育および看護の情報を公開し、広報活動を行っている。	○		
(2)学校行事は地域社会を考慮して教育計画に位置づけている。		○	
(3)地域への働きかけは社会のニーズに応じた内容である。		○	

2) 近隣関連施設との連携

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4)近隣施設へのボランティア活動に積極的に参加している。			○
(5)社会人および近隣施設の生涯教育の場として学校を開放している。		○	
(6)近隣関連施設との情報交換および連携システムができている。		○	

(自己評価内容)

(4) 新型コロナウイルス感染症対策下のため、募金活動に変更し実施している。

「10. 社会への貢献」に対する概要と今後の課題

新型コロナウイルスの影響により、近隣施設へのボランティア活動はできていない。第5類となった後、ボランティア活動に関して意識を高められるよう、取り組みを検討していく必要がある。グローバルに鑑みて、ウクライナ・アフリカ内戦地域へのユニセフ募金活動を実施したが、今後継続もして行きたい。河内長野市役所や社会福祉協議会、地域包括支援センターと連携を図りながら、認知症サポーター養成講座や精神障害地域包括事業の招聘講義を実施した。広報委員の活動を積極的に行い、社会のニーズに沿って地域への貢献・連携を図りたい。

11. 予算

1) 事業計画

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 学校の事業計画を立てている。	○		
(2) 事業計画は学園の全体計画の中に適切に位置づけられている。	○		
(3) 中・長期目標の執行計画が立てられている。		○	

2) 予算の執行

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(4) 年間の予算計画・執行状況を把握し、必要時修正している。	○		
(5) 職員は収支の状況を把握している。		○	

3) 経営意識

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(6) 職員全員が経営意識を持っている。		○	
(7) 職員は歳出削減に向けて努力している。		○	

「11. 予算」に対する概要と今後の課題

予算の立案については各委員会からの要望と、必要な物品の選定を行い限られた原資の中から適切に配分されるように行い、予算の執行についても月次収支の報告を行っているが、深く理解するまでに至っているのは一部の職員に限られる。新規採用の職員が増えたこともあるが、小さなルーティンから見直しを行い3学科に周知することで、更なる歳出削減が可能と思われる。年間の事業計画、事業予算とともに、中長期的な予算計画の立案と計画内容の職員共有が今後の課題となる。

12. 学校評価

1) 自己点検・自己評価

評価対象項目	できている	一部できている	できていない
(1) 学校自己点検・評価のシステムが作られている。	○		
(2) 自己点検・評価に必要な基礎データ等の整備がなされている。	○		
(3) 自己点検・評価を定期的実施している。	○		
(4) 自己点検・評価の結果を公表している。	○		
(5) 評価を次年度に活かしている		○	

「12. 自己点検・自己評価」に対する概要と今後の課題

学内に自己点検・自己評価委員会を設け、委員と各リーダーが中心となり実施している。

各学科にてそれぞれ評価した後、評価規程に基づき前期・後期の2回自己点検・評価を実施し、結果を取り纏めている。

学校運営関係（概況書・会議録・養成所評価・入試等）教育課程関係（教育計画・時間割・シラバス・実習要項等）学年関係（日誌・出席簿等）その他（謝金・進学、就職等）、各書類においては、都度担当者がデータを整えている。

毎年、評価委員会及び学校ホームページにて授業・実習・生活における学生アンケート、学校評価とともに公表している。

委員会で検討された改善策の中には、予算や施設面で例年解決できない課題もある。